

学会報告
第 17 回日本心療内科学会総会・学術大会
会長 久保千春

平成 24 年 11 月 17 日（土曜）・18 日（日曜）の二日間、九州大学医学部百年講堂において、第 17 回日本心療内科学会総会・学術大会が開催されました。今回の大会テーマは「社会のニーズにこたえる心療内科-Change & challenge-」でした。このテーマは、年々増加しているストレス関連疾患について、これまで築きあげてきた貴重な研究成果に加え、現代社会のニーズに即した、新たな、また挑戦的な研究成果の発信も重要だとの視点から出てきたものです。

会長講演は、学会テーマと同じ「社会のニーズにこたえる心療内科」でした。特別講演は 2 題であり、日本医師会長の横倉義武先生の「日本医師会の医療政策」では、現在の医療情勢を知ることができました。ドイツ心身医学会会長の Stephan Zipfel 先生（チュービンゲン大学）は「Psychosomatic Medicine and Psychotherapy in Germany – from historical routes to international perspectives」について講演されました。ドイツ心身医学を知ることが出来て、日独交流をさらに深めていく必要を感じました。

教育講演 2 題でした。九州大学心療内科で研修をされ、現在は佐久総合病院長の伊澤 敏先生に「心身医療への期待 - 若月俊一の実践より -」、自然科学研究機構生理学研究所の定藤規弘先生より最近のトピックスである「社会能力の発達過程：脳機能画像法によるアプローチ」でした。興味ある講演でした。

シンポジウムは大会テーマである「社会のニーズにこたえる心療内科」を反映した「社会のニーズにこたえる呼吸器・循環器疾患の診療」「社会のニーズにこたえる消化器疾患の診療」「社会のニーズにこたえる肥満の診療」の 3 題に加え、Stephan Zipfel 先生、Hans-Christoph Friederich 先生（ハイデルベルグ大学）にもご参加して頂き、英語によるセッション「摂食障害治療の進歩」、特別講演に関連した「脳のイメージング」、さらに、「桂記念治療的自己研究会シンポジウム」の 6 題でした。

特別企画として「東日本大震災 陸前高田市における支援活動報告」日独交流企画ワークショップ」「第 38 回日本心療内科学会学術講習会」などが開催されました。いずれも熱心に発表や討論がなされました。

一般演題は計 49 題の発表がありました。若手研究奨励賞は 朝野康成先生（九州大学）、菅 健太郎先生（高知大学先生）鹿野理子先生（東北大学）が受賞されました。懇親会では九州大学邦楽部の学生さんに演奏をお願いし、国際色豊かな懇親会を和で盛り上げて頂きました。18 日の日曜日には市民公開講座「21 世紀の心療内科」開かれました。

二日間で総数約 550 名の参加を頂きました。学会の開催に当たり、九州大学心療内科の皆さんに学会の企画や当日の運営にご協力頂き、誠にありがとうございました。また、協賛をいただいた各企業の方々に御礼を申し上げます。